社說

古風の人物を用ふ可らず

人事の進歩に隨ひ新思想の人物を生じて古風の人に代るは誠に目出度次第にして其新陳代謝の速ならんことこそ願はしけれども時としては尚ほ古めかしき輩が社會の表面に出沒して思ひ掛けなき間違を仕出來すことなきに非ず社會の爲めに謀りて隨分掛念なる次第なり抑も其古風の人とは必ずしも年長故老の意に非ず老人にても壯年にても文明の教育に乏しく事物の將來を想はずして既往を慕ひ其外面の如何に論なく内心深き處は儒教の捕虜と爲り世界普通の大勢を知らずして動もすれば自尊排外の精神を蓄ふる者にして此流の人物中にも自から取る可きものなきに非ず其心の正直、愛す可き處ありと雖も正直單純は則ち無智頑陋に隣して迚も今の複雜なる人事を處理するに足らず一の弊害を見れば一片の法律を以て即時に鎭壓し得べしと思ひ世間の風潮も巡査の干渉を以て一朝に左右するを容易なるべしと考へ一人の當局者を進退すれば内治外交の不如意も忽ちにして意の如くなる可しと想像し已れと意見を異にするものあれば直に世を亂るの亂臣賊子と斷定して之を讐敵視するなど胸中如何にも切迫して少しも餘裕を存せざると同時に又其の眼に限り古風の虚飾邊幅を繕ふて俗世界に威張らんとするの小野心を懷くが故に往々驚く可らざるに驚き泣く可らざるに泣き喜ぶ可らざるを喜び憎む可らざるを憎みて意外の騷動を引起し又失敗を招くに至るものなり例へば朝鮮の王妃が日本の爲めに好ましからぬ擧動するを見て是れさへ除けば半島王國の事復た意の如くならざるはなかる可しと思ひ定めて他を顧みず其結果として今日の難局を招きたる者は如何なる種類の人なるか又政體の變革は固より容易ならざれども既に斷じて憲法政治と定めたる上は官民調和して事に當らざるを得ず然るに立憲の準備中より朝堂の衣冠文物を殊更らに新にして新華族などを製作し官尊民卑の分界を明にして官吏輩の得意を示し其狀恰も西洋作りの室内を裝飾するに和漢の骨董を以てするが如くにして既に民心を厭はしめ議會を開くに至れば一方に議員を敵にしながら又一方には其敵たる議員の歡心を得んとて常に小策を運らし内に居ては御前樣何樣閣下など呼ばれ陪食客等の媚るがまゝに任して己れ自から人種の異なるが如くに構へながら大臣閣下が議會に出れば何か樣子を改めて言語を和らげ諸君も我等も共に同胞の兄弟と云はんばかりの風を裝ひ以て人民を籠絡せんとして何時も失敗したる者は如何なる教育に育せられて如何なる氣位に安んずる人なるか凡そ此等の事跡に徴すれば藩閥者に文明の[illegible]乏しきは明白にして唯具眼者の一笑に附す可きのみ到底文明の眞面目は共に語るに足らざるなり[illegible]世には物好奇の人も少なからず尚ほ此流の人[illegible]を以て時に之を用ひんとするものあり内閣員[illegible]候補者の中にも見ゆるは頗る[illegible]の事にし[illegible]あれば又[illegible]の[illegible]擬し[illegible]云ふ奇も[illegible]其[illegible]に違[illegible]し此[illegible]一流の人は思想單純なるが故に其言行も剛穀朴直なるに似たれども儒流の固有として事を處するに當り一方に無限の權力を與へて他の一方に無限の服從を命じ權勢偏重の間に秩序を保たんとするものにして人生獨立の大義は到底知るに由なし其接する所の相手次第にて或は伸び或は縮み伸縮自在にして恰も脊骨なき動物なれば其氣品高からんと欲するも得べからず彼等が[illegible]なるが如くに見ゆるは智慧なきが爲めにして其膽力あるが如くに見はるゝは盲人の蛇を怖れざるものなり依賴するに足らざるなり左れば今の世に此流の人を用ふるの場所なきは明白にして強ひて用ひんとすれば陰陽遠邇に何れの邊にか大間違を生じて大不利なきを得ず當人等も今は自然の時勢を諦め當路者も斷念して新に採用せざるは勿論現に政府部内にある者も追々排斥して後進の新人物を以て之に代ふるの工夫肝要なる可し我輩の敢て希望する所なり

○蘇滬間の航業　蘇州開けて以來我が白岩龍平氏先鞭を着けて此間だに航業を營なみ續て米商ランパス又會利公司の名を以て其業に從ひ其他支那人の新に同業に從事するものも增加し過般來實際の上に競爭を試み甚しきには官輪一圓二十錢を以て往來したるもの今は四十錢と爲り支那の旅客は只低廉なるものを撰ひて乘船するを以て終に同業者相連合して巡撫に一定の價を立てんと請ふに至りしなど殆んど競爭の極に達せしがランパス氏は更に十二艘の新船を加へ盛に競爭せんとて其準備に怠りなしと近着の上海通信中に見ゆ

○臺灣土匪の猖獗　臺灣土匪の情況に就ては屢々本紙に記載したるが水野民政局長より拓殖務省へ報告したる十二月二十二日付の公文に依れば十二月に入りては著るしく加害の數を增して基隆と臺北間は鐵道線路を超えて來襲する程の有樣となりたる由にて是は土匪等が近來糧食に欠乏せるに更に冬季に迫りて座ながら食物を得ること能はざるに依り各庄に出沒して兇暴掠奪を逞うせるに出るといふ左れば總督府は警察官をして嚴重に取締をなさしめ土匪群集の地には特に軍隊を派遣して之を討伐せしめたれども彼等は巧に各地に出沒して掠奪を事とし容易に討滅する能はざれば目下尚ほ一層嚴重に取締を爲し居るよし

○支那の新開港場と厘金税　北京より香港へ達したる電報に據れば西河の沿岸なる梧州河口の二地を開て開港場とすることゝなり又之れと同時に廣東廣西二省の厘金税は税關をして徴集せしむることにせりと云ふ

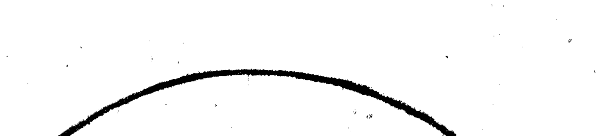
○米國上院キューバ獨立動議　米國上院議員コール氏は先月七日兩院連合の決議案として米國は其法權の及ぶ範圍内に於てキューバ島を自主獨立の共和國と認む可しと云ふ動議を起したれども將に閉會に迫りしかば之を議するの暇なく翌日に延ばせるよし過日の倫敦電報に同院の外務委員會はキューバ島の獨立承認の決議案を可決せりと見えしが是れは思ふに右の動議の事ならん然るに下院の外務委員長ヒット氏の言に云く此事に關して大統領は一ケ月以内に教書を發するならんとか又は國會は今開期中に獨立承認案を可決するならんなどの噂言流行すれども果して的中す可きや余の與り知らざる所なりと云々

○豐太閤榮華物語

放牛舍　桃林述
社員　速記

（第十三回）

名將の下に弱卒なく名醫の庭面藥草ならざるはなし英雄豪傑の如く起る其中に千ノ利休、名は與四郎、宗易と號す、此人は泉州堺の生れにして氏を田中と申します、元は足利室町家に仕へて御目明の役を相勤め名を千阿彌と申しました、足利家の末後、秀吉公の御側に召されて專ら茶事を司りました、其頃茶の會が大層流行致したが凡そ茶と云ふものは一日の中にても過ふ人每に幾度か喫なければならぬもので或は茶を指の腹にて拭き又は鼻紙を取つて之を拭ひ呑口を廻えして他の人に渡しまするのとは誰も皆知つたことで厶りまするが一寸六箇敷もので、先づ茶を立てる時には其圍ひの中に這入れば母の胎内に居る心得になれと云ふ位のもので、極親密の交りを結ぶには是非茶でなければならぬ譯と禪家より出ましたものでござります、それ故方でも茶、碁、能などは貴賤のれ方も玩びまする、併し未だ世の太平無事ならざる時茶などを弄んで遊惰に時を移すと云ふのは、マア有る間敷事のやうに思召す方もあらうけれども茶の極意は姑く措いて或は敵に間者を入れやうとか又彼の敵國より來て居るものは若しや間者ではあるまいか、斯く／＼謀つて敵を討たうとか乃至我娘を敵に嫁がして之を因に其心の弛みを覗つと云ふ皮肉の策を運らすのも多くは茶を始めとして親密の交りを結ぶ、それ故茶を專ら用ひたものであります、治亂兩樣とも茶は至極宜いものでござります然るに此利休が秀吉公の御意に叶つたと云ふものは或る日秀吉公が利休を召して直徑三尺許りもあらうかと云ふ瀨戸の皿をそれにれ出しになつた、如何にも器は大いが深さは左程でない梅の折枝を取出して予が眼前に於て此皿に梅を活けよと云ふ、利休心得ましてござると言ひながら往きなり十德の袖を捲り上げた、何をするかと思つた處左の手にて右を押へ右の手にて咲いたる梅、蕾める梅の差別なくグッと下から上へ扱上げるや否や花蕾の共バラ／＼ッと皿の上に落て仕舞つた之を御前に捧げて一步後へ下つて平伏して畏つて居る秀吉公之を見て大に感じ申しけるには「根締めに石を置くとか或は何ぞ幹を立つる土臺なくば梅を活ける譯には往かぬもの、全く乃公が難題を申したるに更に躍るゝ氣色もなく即坐に花を扱きたる其頓智古今稀れなる手際ぢや」とて殊の外賞美なされた、利「畏れながら申上ます泰山此處に崩れ四海爰に湧き返るも物に動ぜぬ氣風を養ふは茶にして畢竟悟道徹底を試むるのが茶の極意と心得ます」其後秀吉公或る冬夜の事、何と思ひしか不圖御寢所より起き出で給ひ秀「何時であらうな」[illegible]それに出て[illegible]「御意にござります[illegible]子の半刻でござりませう」秀「雪が降つて居るや」[illegible]は劇しく降つて居ります」然らば汝等今宵供致せと仰せられて羽柴下總守、山中山城守、[illegible]の面々をれ供に連れ[illegible]竹の皮[illegible]にて頭に捧げつゝ表の方へ出で給ひ立止つて[illegible]上に下駄の齒痕を遺すは風流にあらず」とて常に利休が嗜める金剛[illegible]れた後世雪踏と[illegible]履を穿きにな[illegible]せられた、先き[illegible]をしたゝかに打[illegible]へて戸を押開き[illegible]り他の者には侯[illegible]



休は畏つて[illegible]は／＼雪中御[illegible]寄の事に候」[illegible]ひつゝ門口に敷[illegible]わりし迹を取の[illegible]ッと側に押退け[illegible]ると迹の上には[illegible]に雪が積て居ら[illegible]は究然雪を掃き[illegible]たが押退けたる[illegible]く滑らかに相成[illegible]其傍に御履を[illegible]られて只ある[illegible]通らせ給ひ[illegible]夜中御道で[illegible]な　利「聊か[illegible]は存じませ[illegible]き仕合せ[illegible]仰に成ら[illegible]た、今宵の[illegible]て[illegible]る[illegible]茶道に熱心で[illegible]ります斯くの[illegible]の心に[illegible]を立てゝ献じ[illegible]へ取出しまし[illegible]ふれへ控へ居[illegible]